

東北地方 1か月予報

(3月9日から4月8日までの天候見通し)

平成14年3月8日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

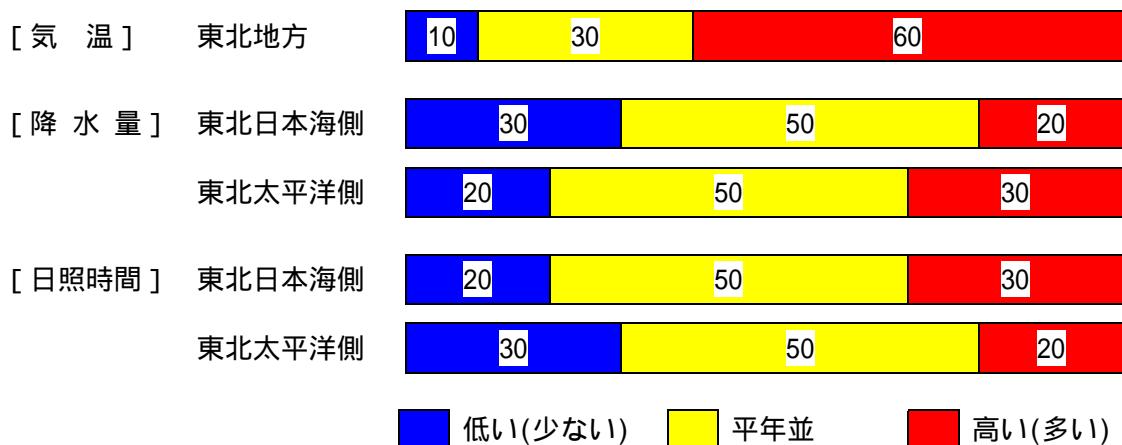
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北太平洋側では平年同様晴れる日が多いでしょう。

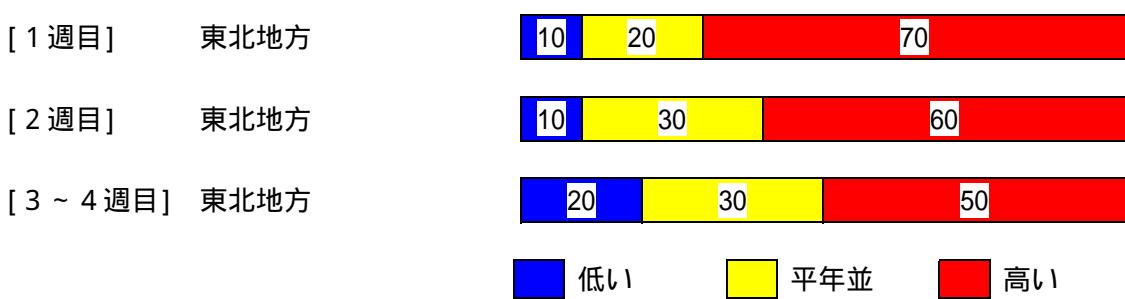
向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間も平年並でしょう。

1週目、2週目、3~4週目の気温とも高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 3月 9日(土) ~ 4月 8日(月)

1週目 : 3月 9日(土) ~ 3月 15日(金)

2週目 : 3月 16日(土) ~ 3月 22日(金)

3~4週目 : 3月 23日(土) ~ 4月 5日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は3月15日

3か月予報:3月20日(水) 14時00分

暖候期予報:3月11日(月) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	3.4	65.0	159.6	1.3	2.3	4.3
秋田	4.6	98.3	152.8	2.5	3.5	5.6
盛岡	3.3	85.5	170.4	1.1	2.2	4.3
山形	4.6	65.9	156.8	2.4	3.4	5.5
仙台	5.8	82.8	186.9	3.9	4.7	6.6
石巻	5.0	78.7	192.6	3.1	4.0	5.9
福島	6.3	81.2	183.2	4.2	5.2	7.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.2~+0.3	86~112	96~106
東北日本海側	-0.3~+0.3	88~109	94~106
東北太平洋側	-0.2~+0.3	83~119	97~106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.7	-0.5~+0.6	-0.5~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.5~+0.6	-0.5~+0.5
東北太平洋側	-0.7~+0.6	-0.5~+0.6	-0.4~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

- (1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年3月8日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(3月9日~4月8日) :

天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目(3月9日~3月15日) :

期間の初めと終わりは気圧の谷の影響で天気のくずれる所があるでしょう。その他の日は高気圧に覆われ、各地とも概ね晴れる見込みです。

平均気温は高いでしょう。

2週目(3月16日~3月22日) :

天気は概ね周期的に変化するでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(3月23日~4月5日) :

天気は周期的に変化するでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数

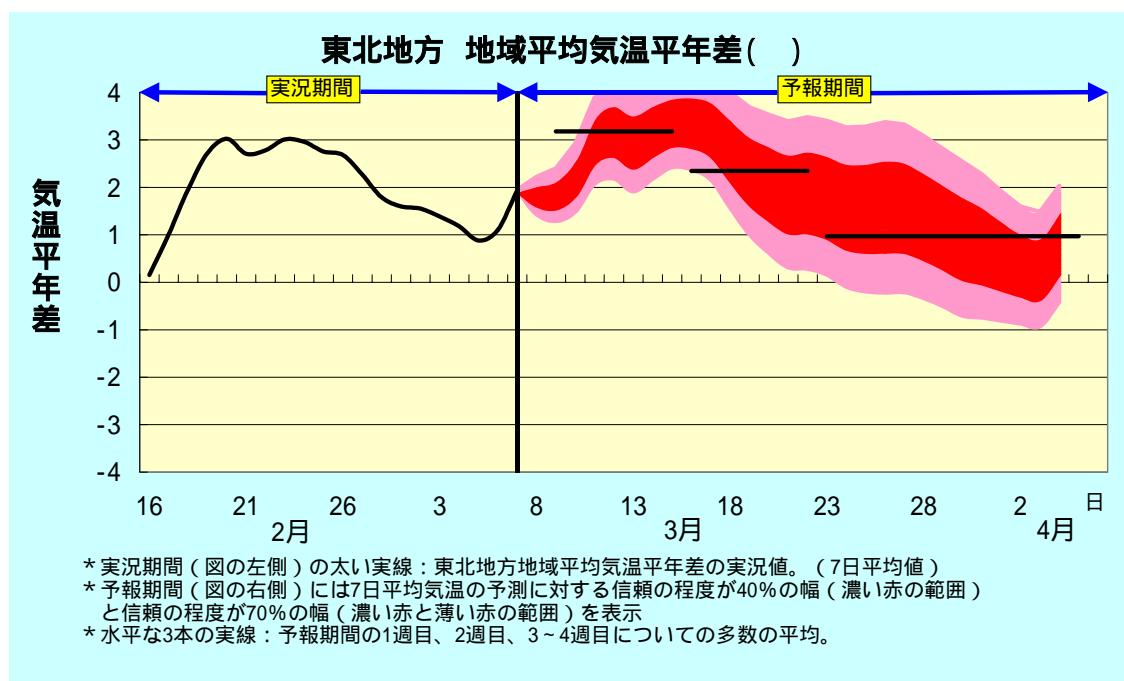
	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	13.3日	2.8日	3.2日	7.3日
東北太平洋側	17.8日	4.4日	4.5日	8.9日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と予測結果

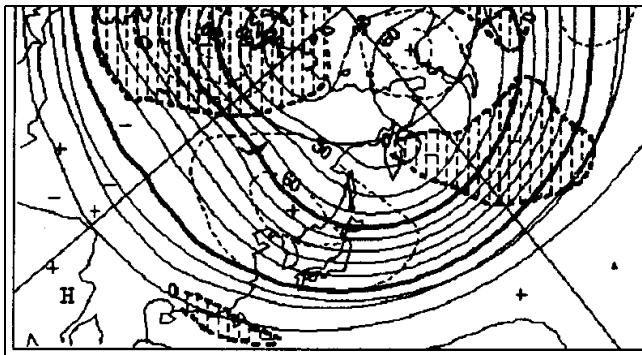
週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目とも「高い」を予測している。

予報は、1週目、2週目、3~4週目とも予測どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。



3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

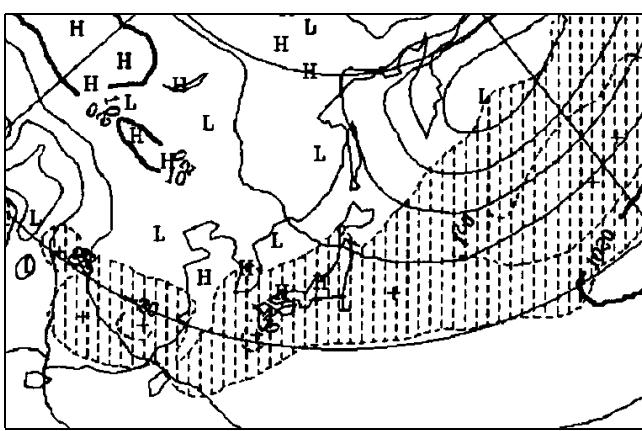


月平均の 500hPa 高度・偏差
等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差

500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、沿海州付近やアラスカ付近に正偏差の大きい領域があり、極東域はほとんど正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化。

週別（図略）では、1週目にカムチャツカ半島に負偏差域が広がるが、それ以外は月平均とほぼ同様。



月平均の地上気圧と降水量
等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上

地上気圧と降水量

月平均で見ると、カムチャツカ半島の東には低気圧があり、東シナ海から日本付近にかけては高圧部となっている。日本付近は等圧線の間隔が広く、概ね周期変化。

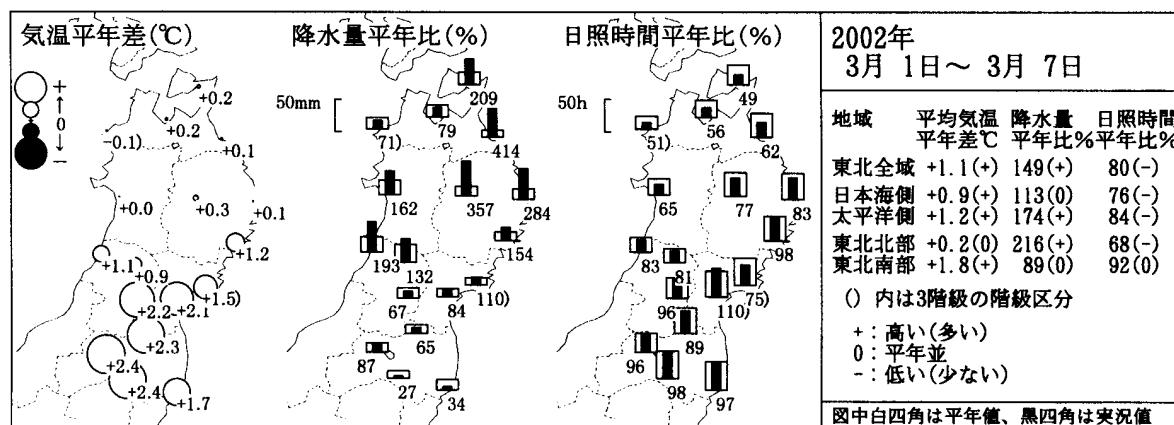
まとまった降水域は日本付近から東海上に延びる。

週別（図略）でも月平均とほぼ同様。

4. 最近1週間（3月1日～3月7日）の天候の経過

この期間、気圧の谷が周期的に通過し、通過後は東北北部を中心に一時冬型の気圧配置となった。このため、天気は概ね周期的に変わったが、東北北部では曇りや雨または雪の日が多く、東北南部では晴れの日が多くなった。特に6日は低気圧が発達しながら日本付近を通過したため、東北北部を中心にまとまった雨や雪となった。

平均気温は、東北北部で平年差+0.2と平年並、東北南部で平年差+1.8と高かった。降水量は、東北北部で平年比216%と多く、東北南部で平年比89%と平年並だった。日照時間は、東北北部で平年比68%と少なく、東北南部で平年比92%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）